

「みえの現場・すこいやんかトーク（木曾岬町）」の概要

2月22日（水）に木曾岬町役場で「みえの現場・すこいやんかトーク」を開催しました。

当日は、木曾岬町の特産品であるトマトを活用し、新たなレシピの開発などを通して町おこし活動に取り組まれている「ごたーげさん」の皆さん12名にお集まりいただき、取り組まれている事業の内容や成果、行政へ期待していることなどのお話をお伺いしました。



【参加者の発言】

参加者の皆さんから、以下のような意見をいただきました。

地元の産品には、良いものが結構ある。地元の皆さんにも知ってもらいたいし、買っていただきたい、もっと、県内、県外のたくさんの方にも知っていただきたい。そういう思いでこの活動に参加している。基本は無添加で、安心・安全な食材ということで、こだわりを持って作っている。子どもたちに本当においしいものを食べさせてやりたいと、おばあちゃんになったらそう思うようになった。

例えば国道23号の防音壁にトマトのイメージキャラクターの絵を描くとか、誘致の話が出ているメガソーラーの枠をトマト色にしてもらうとか、どこかに遊び心のあるインパクトのある取り組みで、三重県独自の頑張ってますよというもので、木曽岬町のトマトもアピールできないかと思う。

トマトを使った特産品を作っても近場で売る場所がない。良いものを買うという人が来るところで売りたい。そういう機会を増やしたい。道の駅とかはそういう商品を買いに来のお客さんが見えるから売れる。道の駅を作ってもらえると嬉しい。地元の人が美味しいと言えば、口コミで広がる。地元の飲食店で少しでも置いてもらうとか、町外のアンテナショップみたいなところでアピールできれば良い。

商品化する、売れる状態にもっていくとなると許可を取るのが非常に難しい。ケチャップを作るにしても貯蔵と加工と保存にそれぞれ部屋を作らないといけないが、現在は、一つのコンテナ小屋で作業しているため、そのような加工製品がつかれない。

町民も減ってきているが、自分たちの地域の良さがあれば、出て行った人も帰ってくると思う。昔からの農業文化や地域の味を若い人に伝えることに、私たちだけでなく行政も力を入れてほしい。



【知事の発言】

知事からは、以下のような発言がありました。

PRについて、身近なところで、遊び心を持って、徹底してやれというのは行政としても心してみたい。

行政でやれるところはしっかりやらなければならないし、皆さんでできるところは、皆さんでやっていこうよというふうにしたいと思っている。例えば、行政で売る場所の機会提供みたいなものは考えていくにしても、売る場所は皆さんで探すというようなこともある。

法での規制には、食の安全などの面からそれなりの理由があってしていることだとは思いますが、他県の状況も参考にして、安全というものをちゃんと確保しながら、柔軟にできる場所があれば柔軟にしたいと思う。

自分たちのもっている良さ、自分たちの地域のもっている良さを知るということは、まさに私がやっている「すこいやんかトーク」の意義でもあり、三重県のすこいところ、良いところにたくさんの方が接してほしいという思いでやっている。私も皆さんから元気をいただけるように、私も皆さんに元気になってもらえるように共に頑張っていきたい。